

アメリカ Ph.D. 留学 出願プロセスについて

西村結衣

最終更新：2022 年 12 月 22 日

1 アメリカ Ph.D. 出願 Tips

- 多くの書類と英語スコアなど準備するものが多いため、とにかく早めに出願準備を始めること
- 卒論や修論を Writing sample に流用するため、最初から英語で書くことがおすすめ
- 最低限の英語スコアは必要だが、それ以上に日本人留学生の選考で「英語力」がネックとなる。英語力を示す手段として留学経験や英語を使ったインターンはプラス
- 合格すれば基本生活費は担保されるものの、**外部奨学金はかなりのプラスになる**（そのためには早めの英語スコア取得、面接対策が重要）。奨学金の例は以下：
 - － [フルブライト 大学院留学プログラム](#)
 - － [平和中島財団 日本人留学生奨学金](#)
 - － [経団連 グローバル人材育成スカラシップ](#)
 - － [伊藤国際教育交流財団 日本人奨学金](#)
 - － [村田海外留学奨学会 海外留学奨学金](#)
 - － [日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度 大学院学位取得型](#)
- アメリカ Ph.D. 途中で辞める可能性を踏まえ、日本の大学院で博士後期過程に進学したのち休学して留学する人も多いので、自身のキャリアを考えて出願タイミングを考えることも重要

2 出願プロセス

出願 1 年前

- 情報収集
 - － アメリカ Ph.D. 出身の先生方・先輩方に連絡をとり、奨学金や出願先大学の選定
 - － 可能であれば出願したすべての奨学金・大学院の書類を共有してもらう（合格・不合格問わず）
- 希望大学院の選考要件から逆算した出願年間スケジュールの把握
- 留学を意識した英語学習を始める

出願の年

- 4-8 月：英語学習（IELTS）、情報収集を続ける、修論のためのサーベイ実験の実施
- 8-11 月：
 - － 9 月には先生方に推薦書の依頼
 - － 外部奨学金出願・面談開始（大学ごとに内部審査があるものもあるので注意）
 - － 11 月末：事実上 GRE 受験締め切り（受験時に school code を入力、システムが送付に約 2 週間）
 - － Writing sample の英語のブラッシュアップ
- 12 月-1 月：アメリカ大学院に出願開始
- 2-3 月：合格通知が届き始める、交渉（この時期に campus visit をする人も）
- 4 月中旬：合格通知に対する返答締め切り、Rice U に進学することに
- 5-6 月：渡米に必要な移民手続き（Visa 取得等）や健康診断・ワクチン接種
- 7 月末：渡米

表 1 必要書類の概要

書類名	概要	メモ・注意
Letters of Recommendation	一般的に 3 通。各先生から違うスキルについて書いてもらえることが理想。	各大学別に先生を変える必要（例：郵送提出だと海外の先生に頼みにくい）も考えられるため、出願システムは事前にチェックしておくことが望ましい。
Statement of purpose	自身のキャリア目標、どうしてそのプログラムを希望するかななどを 2-3 ページでまとめた文書。短い、各大学別に指導を受けたい先生の名前を挙げる、自分の研究関心や自身の強みと希望大学のマッチングの良さ、大学の「売り」のプログラムをどのように利用したいかななどを詳細に述べる必要があるため綿密な準備が重要。	求める内容について参考になる Tweets
Diversity statement	「多様性」についての考え（また可能であれば、自身のプログラム参加が多様性にどう影響するのか）を書く、近年導入された文書。recommended/supplementary material とする大学もあり。	アメリカでは人種・ジェンダーについての意識が高まっており、その影響が強いと思われるが、留学生としての違いや出身国内でのバックグラウンドも言及すると価値があると思われる。
Transcripts	学部（＋大学院）の成績表。	大学によってはアメリカ内の GPA 計算にするシステムの利用を勧められる / 要求されるため注意。
English Language Proficiency Requirements	英語がネイティブではない学生は要提出。英語での学士以上の学位取得で代替可能な場合もあるが、外部奨学金を希望する場合、書類審査の時点で TOEFL100、IELTS7 を求められることが多いため夏時点でスコアを取っておくことが望ましい。	必要スコアは出願校ごとに異なるので注意。
GRE score	Verbal（語学）、Quantitative（数学）、Writing の試験。語彙の難易度が高く、Non-native にはかなりの準備を要する。逆に Quantitative で高得点を取れると良い。	近年 COVID-19 の影響で数年前から required から recommended になった大学もあり。
Writing sample	長さは学校によって異なる。授業のレポート等よりは卒論・修論レベルのものが望ましいと考えられるが、政治学分野でなくとも可。	多くの大学で required。recommended/supplementary material とする大学もあり。